

第1回金沢版働き方改革検討会議 発言要旨

1. 開催日時 平成30年5月31日（木）午後3時30分～5時
2. 開催場所 金沢市役所 会議室「兼六」
3. 出席委員 眞鍋委員、石野委員、高委員、北川委員、菊池委員、高井委員、
細田委員（以上7名）
4. 事務局 吉田経済局長 他5名
5. 内 容

市長挨拶 少子高齢化や人口減少は金沢も例外ではなく、労働力の低下による地域経済への影響が懸念される。

また、一部の業種では人手不足が深刻化しており、今後、官民が一体となって、生産性の向上など働き方改革に取り組んでいかなければならないものと考えている。

「金沢版働き方改革検討会議」では、豊富な知識と経験をお持ちの皆さまからご意見、ご指導をいただきながら、働き方改革に向けた施策を検討していきたいと考えているので、お力添えをお願いしたい。

- 議 題
- （1）これまでの本市の取り組みについて
 - （2）金沢版働き方改革の推進について

事務局が資料に基づき説明

意見交換（委員からの主な意見）

- ・ 労働環境において金沢市の全国と比較した長所や短所を明確にして、「金沢市ならではの」という論点と施策を明確にすべきである。
- ・ 10年後の金沢市の働き方のあるべき姿、実現したい姿を明確に想定し、まずはそのゴールと現状との格差を認識することが重要である。この格差が各分野で存在していることを各種団体、市民に認識してもらうことから働き方改革に取り組むべきである。
- ・ 「働き方改革推進プラン」もさることながら、「新産業創出ビジョン」が非常に重要である。「働き方改革推進プラン」と「新産業創出ビジョン」は両輪である。

- ・ 企業によって直面している課題は、残業を減らす、休日を増やす、賃金制度に取り組む等様々である。金沢市の特徴としてどの企業でも取り組める事項があればいいのではないかと思う。
- ・ 人手不足に悩む中小企業が多いが、単に「ノー残業デー」を推進するだけでなく、業務を洗い出し、1業務1分残業を減らす等、具体的に改革を進める必要がある。そのため、業務の見直し手法等の意見がほしい。
- ・ 金沢は観光都市でサービス業が多いため、休暇が取りにくい。働き方改革、生産性向上という言葉は知られているが正しく理解されていないため、現場ではどう実践していけばよいか分からない。
- ・ 平成30年3月に人手不足調査を行い、566事業所から回答を得た。
 ※調査の回答内容は別紙のとおり
 （金沢商工会議所会報 かなざわ5月号(745号)2～3頁を引用）
- ・ 会社の成長と人の成長は同じものであると考えている。人手不足は特にサービス業で顕著である。採用募集をしても応募がなかったり、就職しても雇用が継続しない等、常にぎりぎりの人員で仕事を行っているため、気持ちの余裕のなさからパワハラが起こったり、精神的に病むという悪循環が生まれている。仕事量が変わらないのに残業を減らしたり休暇を取得するのは無理がある。
- ・ 今いる社員をいかに大切にしていくかが重要。また、長時間労働を是とする企業風土を変えなければならない。女性や障害者、高齢者が働くためには労働時間の分割（ワークシェア）が必須。労働時間の長短だけで賃金水準を決めている現状は今後変えていかなければならない課題である。
- ・ 金沢版働き方改革は中央と地方の格差を埋めることから始まっていると思う。その中で「金沢らしさ」を出していければと思う。
- ・ ノー残業デーについては、一律に帰るのは難しいので、各部門毎にノー残業デーを設定し、個人で計画し実行するという試みは効果を発揮している。